南房総市
防災マップ



災害は、「いつ」「どこで」起こるかわかりません。災害には、地震・津波や、大雨・洪水・内水氾濫・暴風・竜巻・土砂災害などの風水害があります。

このマップは、南房総市で発生する洪水・土砂災害や地震・津波による危険がある範囲と、危険が迫ったときに避難する「指定緊急避難場所」などを示したもので、市民のみなさまの避難に役立つように作成したものです。

このマップを参考に、日頃からどのように避難すればよいかなどを家族で話し合い、いざというときに危険を回避できるようにしましょう。

マップは貼り付けておいたり、すぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

●防災マップの使い方●

いざというときにあわてずに適切な行動をとるために、平常時より家族や近所で話しあい、避難の準備をしておきましょう。

1. 自宅の位置や避難先を確認
2. 浸水範囲、土砂災害警戒区域等、周辺の危険性を確認
3. 避難経路を確認
   ※実際に歩いて確認しましょう！
4. 災害が発生したらすぐに逃げられるように準備しておきましょう！

ひと・ゆめ・みらい 地域で創る魅力の郷 南房総

南房総市
MINAMIBOSO

発行：南房総市役所　市民生活部消防防災課
TEL：0470-33-1052
発行年月：令和３年３月

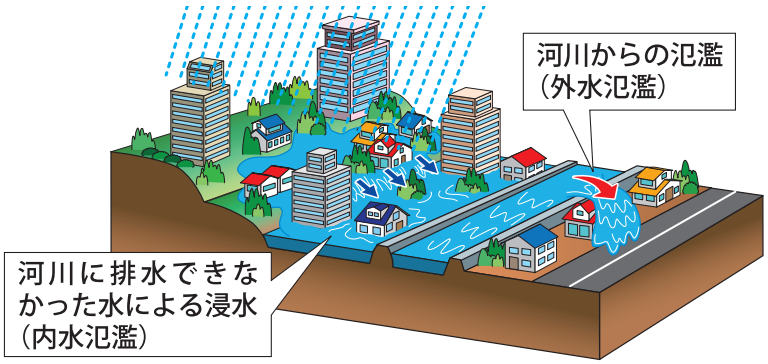
● 大雨などによって想定される災害

内水氾濫とは

大雨により、雨水が街中で溢れ出した時に発生する氾濫です。

洪水（外水氾濫）とは

大雨により河川の堤防が壊れたり、堤防から水が溢れたりして発生する氾濫です。



土砂災害とは

大雨や地震により、土砂などの移動が原因で発生する災害です。

がけ崩れ（急傾斜の崩壊）



急な斜面が、大雨により突然崩れ落ちる現象

土石流災害



土砂や石などを含んだ濁流が、谷や渓流から激しい勢いで押し流される現象

地すべり



雨水を含んだ土地が、ゆっくりと比較的広い範囲にわたり動き出す現象

● 風水害時の防災情報と取るべき行動

大雨時の気象情報、防災情報をまとめたものです。これらの情報を参考に自ら情報を収集し、自主的避難を心がけましょう。（大雨の降り方によって、発表される気象情報や避難情報などの順番が異なることがあります）

● 気象情報

警報が発表されたときは河川の水位情報や土砂災害の情報などに注意しましょう。

大雨注意報・洪水注意報

大雨や洪水などにより、災害が起こるおそれのあるとき



とるべき行動

気象情報に注意する。



大雨警報・洪水警報

大雨や洪水などにより、重大な災害が起こるおそれがあるとき



とるべき行動

河川の水位情報や土砂災害の情報、避難に関する情報に注意する。

大雨特別警報

警報の発表基準をはるかに超える豪雨などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっているとき

とるべき行動

直ちに命を守る行動をとる（避難所へ避難するか、外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる）。

記録的短時間大雨情報

大雨警報発表中に数年に一度しか起こらないような短時間の猛烈な雨を観測したとき

とるべき行動

外出は控える。
屋外にいる時は、強固な建物や少しでも高いところなど、安全な場所へ移動し、とどまる。

● 河川の水位情報

河川の水位情報は、河川の氾濫に対する避難の目安となる情報です。河川の水位は、国や県、市などが、テレビやインターネットで公開しています。なお、河川の水位を見るためなど、堤防や河川に近づかないようにしましょう。

市内で水位計のある河川

河川名	水防団待機水位(m)	氾濫注意水位(m)	氾濫危険水位(m)
平久里川	1.90	3.10	4.30
岩井川	1.60	2.55	-
瀬戸川	2.60	3.55	-
丸山川	1.10	1.80	-
三原川	2.20	2.90	-

● 土砂災害情報

大雨による土砂災害の危険度が高まったとき、土砂災害警戒情報が気象台と千葉県から共同発表されます。市では、土砂災害警戒情報が発表されている場合、大雨が降り続いているときなど土砂災害の危険が高まっている時には、安全安心メールや防災行政無線などで避難を呼びかけます。

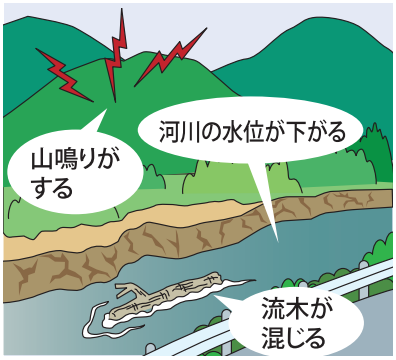
また、市からの避難の呼びかけがない場合でも、土砂災害の前兆現象があれば、安全が確保できる場所に避難しましょう。自宅外への避難ができない場合は、「がけと反対側の部屋に移動すること」や「自宅内の上階へ移動する」など命を守る行動をとりましょう。

前 兆 現 象

がけ崩れの前兆現象



土石流の前兆現象



地すべりの前兆現象



● 避難情報の種類

水害や土砂災害などの自然災害が発生した場合、あるいは発生のおそれがある場合に市から発令されるのが、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示(緊急)」「災害発生情報」です。

避難準備・高齢者等避難開始 (警戒レベル３)	●避難に時間を要する人(高齢者、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から避難を開始しましょう。 ●その他の人は、避難の準備を整えましょう。
避難勧告 (警戒レベル4)	●速やかに危険な場所から避難所へ避難しましょう。 ●外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難を開始しましょう。
避難指示(緊急) (警戒レベル4)	●まだ避難していない人は、危険な場所から直ちに避難しましょう。 ●外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難を開始しましょう。
災害発生情報 (レベル５)	●既に災害が発生している状況です。 ●命を守るための最善の行動をとりましょう。

● 津波から逃げるため、地震が起きた時の行動ポイント

地震は突然発生します。揺れたら津波が来ます。安全を確認したらすぐに避難！

地震発生時にとるべき行動ポイント

地震の発生は「もしも」ではなく、「いつも」あると考えましょう。

1 まずは自分の身をまもる



地震が発生

0分～2分

停電

火災の発生

2分～5分

2 揺れがおさまってから火の元の確認、火の始末、電源オフ

ガスは大きな揺れで供給がとまるしくみが普及しています。揺れがおさまり安全になってから火の元を確認し、元栓を閉めましょう。また、電気のブレーカーを切りましょう。



3 津波情報を確認

津波警報、大津波警報が発表された際は、より早く、より高く、より遠くへ避難しましょう。
津波情報が確認できなくても、大きい揺れや長い揺れを感じたら避難を始めましょう。

5分～10分

より早く、より高く、
より遠くへ
避難しましょう

4 屋内避難経路の確保

揺れによって、ドアや窓がゆがみ、開かなくなっている事が考えられます。割れたガラスに注意し、厚手のスリッパやスニーカーを履きましょう。

10分～

5 近所の安全確認

近所の家屋が倒壊して埋もれている人はいないか、火災は起きていないか確認しましょう。



● 津波避難時の心得

地域での協力が大切！



避難する時に、お年寄りやお体の不自由な方を見かけたら、地域で協力しましょう。また、長い距離を歩くのが難しい場合は緊急避難場所として、近くの津波避難ビルへ避難しましょう。

避難は徒歩で！



車での避難は、渋滞・混乱を引き起こすので、徒歩で避難しましょう。

海岸や川には近づかない！



海岸に近づかないことはもちろん、津波は市街地よりも川を早くさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。

独自の判断で戻らない！



津波は第1波、第2波と何度も押し寄せてきます。津波注意報の解除など安全が確認できるまで避難場所等に留まりましょう。

『マイ・タイムライン』をつくってみよう!

「台風や前線が接近」してから「川の水が氾濫」、「土砂災害・高潮が発生」するまでの行動を書いてみましょう!

地　区　　家マイ・タイムライン　　作成年月日　　年　　月

備えまでのおおよその時間(目安)	行政から発信される情報 黒:気象情報 緑:市	「台風や前線が接近」してから「川の水が氾濫」、「土砂災害・高潮が発生」するまで	主な備え	備えの(例)
3〜2日前	○台風予報	台風や前線が接近		買い物は、雨風が強くなる前にすませておこう ○今後の台風や前線の動きを調べ始める
	○早期注意情報	警戒レベル1		○1週間分の薬を病院に受け取りにいく
	○大雨に関する気象情報			○避難する時に持って行く物を準備する
	○台風に関する今後の見通し	台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる		○家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認(鉢植えなど)
1日前				○排水溝、排水路の清掃
	○大雨注意報・洪水注意報	警戒レベル2		○窓ガラスの補強 ○テレビ・インターネット・メール等で雨や川の様子に注意
				○家族と話し合う
半日前	水防団待機水位到達	雨が集まって、川の水がだんだん増える		○住んでいる所と上流の雨量を調べ始める
	○大雨警報・洪水警報 ○高潮注意報			○防災マップで避難場所、避難手段を確認 ○隣町の親戚の家に家族みんなで避難することを電話
	氾濫注意水位到達 避難準備・高齢者等避難開始	警戒レベル3		○川の水位を調べ始める
	必要な情報は自分で調べましょう	激しい雨で、川の水がだんだん増えて、河川敷にも水が流れる		○通行止め情報がないかインターネットで確認 ○携帯電話の充電 ○避難しやすい服装に着替える ○避難先への避難の開始を判断
3時間前	○土砂災害警戒情報 ○高潮警報	川の水がいっぱいで溢れそう		○川の水位をインターネットで確認
	氾濫危険水位到達 避難勧告	警戒レベル4		○安全な所への移動を始める
1時間前		川の水が溢れる前に安全なところへ逃げる		○川の水位をインターネットで確認 ○避難先への避難を完了
	避難指示(緊急) ○高潮特別警報 ○大雨特別警報			○携帯メールで緊急速報メールを受信
0時間前	氾濫・土砂災害・高潮が発生 災害発生情報	川の水が氾濫 警戒レベル5		○テレビで洪水状況の確認 ○携帯メールで緊急速報メールを受信 命を守ろう!

雨風が強くなる前に行うべき事項をすませておく時期

川の水位や雨、台風の状況を把握しつつ避難に要する時間に応じて避難行動を開始する時期

身の安全を確保すべき時期

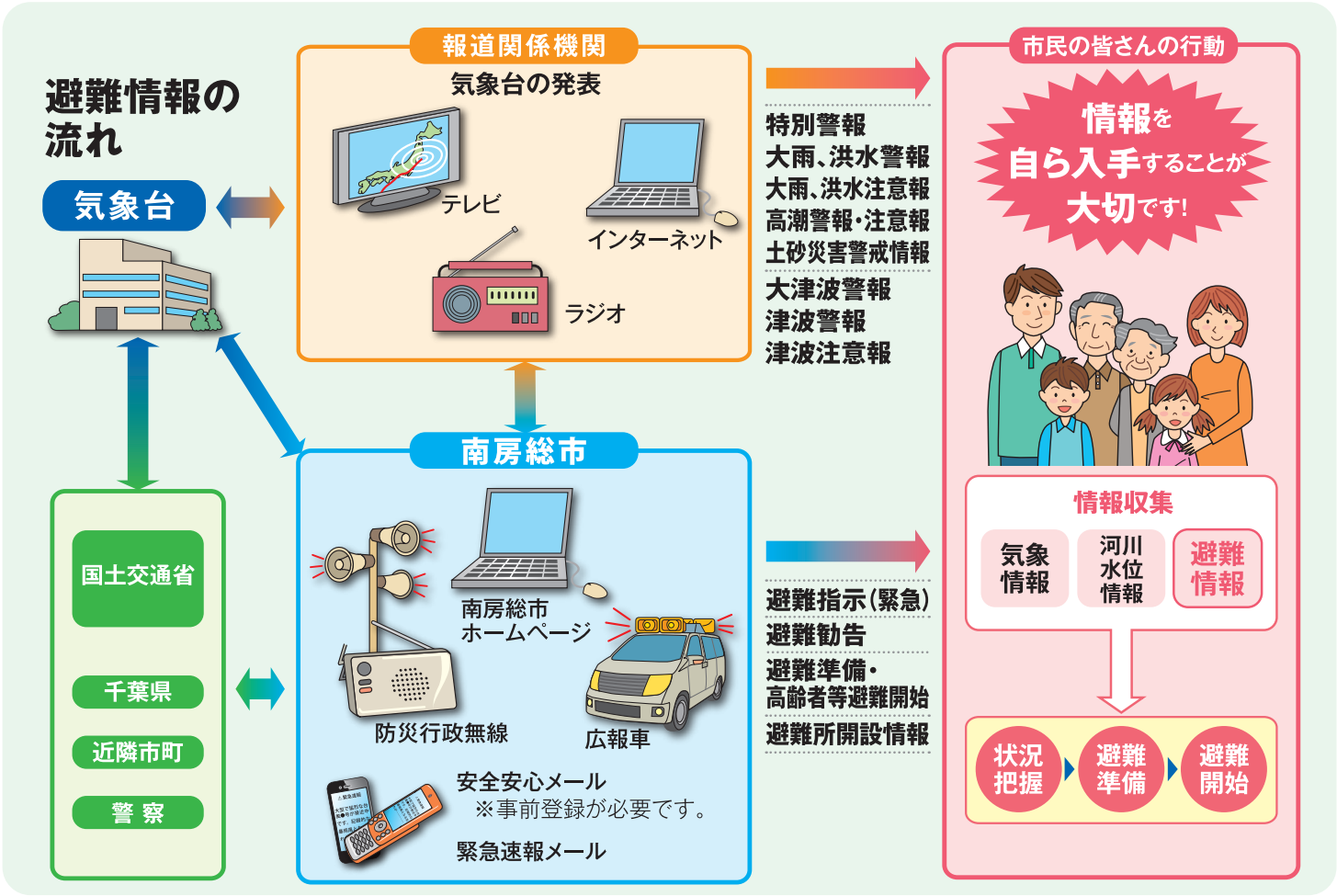
気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間は、イメージで記載しています。
避難勧告等のタイミングは状況によって異なります。南房総市の防災行政無線や安全安心メールでお知らせします。市の発信情報に注意をしてください。

●マイ・タイムラインとは、いざというときにあわてることがないよう、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。家族で話し合って、シートに記入することにより、適切な避難行動を事前に整理できます。南房総市では、土砂災害や高潮被害にも警戒する必要があります。様々な状況を想定してみましょう。

● 災害に対する備え

● その1 避難情報を知りましょう

災害発生のおそれがある場合、南房総市や国などから、防災行政無線、テレビ、ラジオ、携帯メール、インターネットなどを通じて防災情報や避難情報を市民の皆さんに伝達します。



● その2 避難する場所や避難経路を確認しましょう

家族で話し合った避難目標や避難経路を、実際に歩いて確認しておきましょう。また、避難経路は火災や倒壊により通れなくなる可能性もあるので、複数の経路を確認しておきましょう。



緊急時に一時的に避難する場所
(指定緊急避難場所・一時避難場所)

一時避難場所



大規模な災害が発生した場合などに、生命や身体の安全を確保するため、一時的に避難する場所です。

津波避難ビル



津波発生時に、標高の高い所へ逃げることが困難な場合などに、生命や身体の安全を確保するため、一時的に避難する場所です。

一定期間滞在できる場所
(指定避難所・広域避難所)

小学校、中学校など



暴風や河川氾濫、津波、土砂災害から生命や身体の安全を確保するため、一時的に避難したり、被災した時に避難生活をおくる場所です。

●その3 家庭備蓄に努めましょう

非常に広い地域に被害を及ぼす南海トラフ巨大地震などが発生すると、電気・ガス・水道といったライフラインが停止し、復旧までに時間がかかる可能性が高くなります。

また、食料品の流通、生産が混乱し、入手が困難になることが想定されます。そのような事態に備えるため、家庭でも１週間分以上の食料や飲料水などを備蓄しておきましょう。

●その4 非常持出品を準備しましょう

津波避難は高台などで一昼夜過ごす可能性があります。

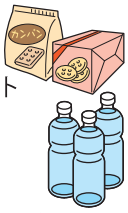
避難の際に最初の１日間をしのぐため、自分で持って避難できる必要最小限の量をリュックサックなどに準備しておきましょう。

○非常持出品の例

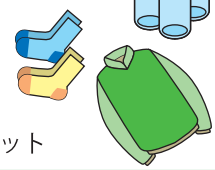
※ 個人や家庭ごとの状況に応じて準備しましょう

□非常持出袋

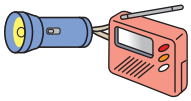
食料関係
- □乾パン、ビスケット
- □飲料水



衣　類
- □上着
- □下着
- □靴下
- □ブランケット

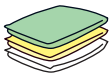


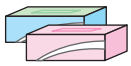
生活用品
- □懐中電灯
- □携帯ラジオ
- □ティッシュペーパー
- □軍手、手袋
- □コンタクトレンズ
- □入れ歯



衛生用品
- □タオル
- □トイレットペーパー
- □マスク
- □紙おむつ
- □生理用品
- □簡易トイレ
- □体温計
- □消毒薬







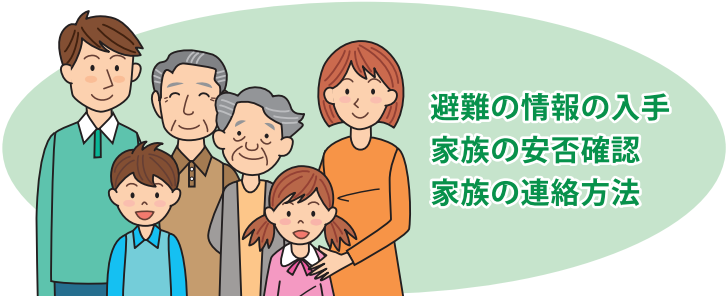
救急用品
- □救急袋
- □お薬、お薬手帳

貴重品
- □現金（小銭も）
- □預金通帳、印鑑

その他
- □ヘルメット

●その5 避難情報や家族の連絡方法を確認しましょう

災害が発生した時、家族が一緒にいるとは限りません。各自で避難の情報をどのように入手するか、災害用伝言ダイヤルなどを活用して家族の安否確認や連絡方法なども確認しておきましょう。



● 災害時の連絡手段

各電話会社は、伝言サービスを実施しています。自身の携帯端末に合ったサービスをご利用ください。

● 災害用伝言ダイヤル「171」

安否確認や避難している場所を音声で伝言することができます　毎月1日、15日に体験利用ができます。

利用方法

1 7 1 にダイヤル
ガイダンス流れる

→

録音の場合 1
再生の場合 2

→

市外局番から電話番号を入力
被災地の方は自宅の電話番号を
被災地以外の方は被災地の方の電話番号を
（☒☒☒☒）☒☒-☒☒☒☒

● 災害用伝言板

携帯電話から専用の伝言板サイトで、伝言を残すことができます

NTT ドコモ
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi

KDDI：au
http://dengon.ezweb.ne.jp/

ソフトバンク ワイモバイル
http://dengon.softbank.ne.jp/

● 災害時ブロードバンド伝言板

（web171）NTT 東日本
https://www.web171.jp

● 安否情報検索

J-anpi 安否情報をまとめて検索
https://anpi.jp

避難者情報の検索・確認ができます

近年の主な風水害

発生年月日	被害地域	災害種別	気象現象	被害状況
2016. 8.22	千倉町平磯区 安馬谷区、沓見区	台風9号 （竜巻とみられる突風）	推定最大風速45m/s	家屋半壊3件、一部損壊70件
2017.10.22	市内 （特に沿岸部）	台風21号 高潮	大潮 満潮	道路冠水2件、道路高潮越波2件、 床下浸水１件、 高潮による水産・漁港被害、 塩害による農作物被害多数
2019. 9. 9 2019.10.12 2019.10.25	市内全域	令和元年房総半島台風 令和元年東日本台風 10月25日の大雨	大雨・暴風 大雨・暴風 大雨	住家全壊96件、半壊937件、 一部損壊5467件、 床上浸水11件、床下浸水34件、 市内広域で長期間停電 災害関連死1名

出典：市消防防災課資料

過去の主な地震災害

発生年月日	震　央	深さ	マグニチュード	被　害　状　況
（慶長）東海地震 1605. 2. 3 （慶長 9年12月16日）	1回目：房総沖 東経140.4° 北緯　34.3° 2回目：東南海道沖 東経134.9° 北緯　33.0°	—	7.9	山崩れ多数、房総半島東岸に大津波が来襲し、上総下総の海岸45カ村が押し流され死者多数。 津波の波高、九十九里付近5～6m、千倉5～7m。
（元禄）関東地震 1703.12.31 （元禄16年11月23日）	房総沖 東経142.0° 北緯　35.5°	—	7.9～8.2	安房地方で山崩れ多数、嶺岡山の亀裂をはじめ各地で地割れが生じた。 津波の波高、館山5m、鋸南7.3m、富津5.3m。 記録がある人的被害状況は、死者について富山地区35名、和田地区約170名、千倉地区28名。
関東地震 1923. 9. 1 （大正12年）	相模湾 東経139.1° 北緯　35.3°	—	7.9	市内の被害は、家屋全壊4,263棟、半壊1,309棟、火災発生7件、死者427名、負傷者674名など。 津波の波高、館山1.8m、鋸南2.2m、富津1m。
千葉県東方沖地震 1987.12.17 （昭和62年）	千葉県東方沖 東経140.5° 北緯　35.4°	58km	6.7	千葉県全体で死者2名、負傷者144名、家屋全壊16棟、半壊102棟、一部破損71,212棟、断水49,752戸、停電287,900戸など。
千葉県北西部地震 2005. 7.23 （平成17年）	千葉市付近直下 東経140.1° 北緯　35.6°	73km	6.0	大きな人的、建物被害はなかったが、広範囲に都市型被害(ライフライン、交通機関、エレベーター)が発生し、一時的に都市機能のマヒ状態が生じた。
東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) 2011. 3.11 （平成23年）	三陸沖 東経142.9° 北緯　38.1°	24km	9.0	千葉県全体で、死者20名、行方不明者２名、負傷者251人、全壊798棟、半壊9,923棟、一部破損46,828棟、床上浸水154棟、床下浸水722棟、建物火災15件など。 津波の波高は、銚子で2.5m、館山で1.7m、千葉で0.9m。 南房総市の被害は無し。

出典：千葉県地域防災計画、千葉県防災危機管理課ＨＰ等

● 安全安心メール

「防災・防犯に関する情報」を、防災行政無線と『**南房総市安全安心メール**』で配信しています。

安全安心メール配信登録方法

1 「aam-reg@anzenlife.jp」へ空メールを送信します。
2 送信後、登録用メールが届いたら、URLをクリックし、登録画面に進んでください。
3 氏名を入力後、希望するメール（防犯・防災）を選択し、登録してください。
4 登録が完了し、登録完了メールが届きます。

登録用QRコード

● Yahoo! 防災速報

『**Yahoo!防災速報**』で南房総市の避難情報や災害に関する情報を、プッシュ通知でお知らせします。

Yahoo! 防災速報
登録用QRコード

QRコード読み取りアプリをダウンロードしてください。